



名鍍会の活動を報告させていただきます。

2024年11月8日(金)、11月例会がプレストーク会議室にて行われました。合同会社アイル・MTT様に、廃液・排水の独自処理技術という題目にてご講演を頂きました。東京からお越し頂いたのは、代表社員の山村様、業務執行社員の川口様です。

山村様より『廃液処理と排水処理』について、川口様より『処理内容についての技術解説』についてお話を頂きました。

アイル・MTT様は、2019年の創業と新しい会社ですが、めっき業界でも長く話題になっている亜鉛、ホウ素及びフッ素を抑えることが出来、且つ、スラッジ量の低減や乾燥時間の短縮が見込めるとい排水の薬品を開発されているとの事でした。

講演時には、簡単なサンプルを利用して液が実際に固まるところなどを見せて頂いたり、細かい技術の話をして頂いたりと非常に参考になるお話を頂きました。

これは近年上昇し続けている排水処理薬品のランニングコストを抑制することが出来る事、スラッジ量が減少しなおかつ乾燥にかかる時間が短くなる事で産業廃棄物の処理コストが抑制出来る事がメリットとして挙げられます。特にスラッジの廃棄等で手間のかかる工程に関しては、働き手不足により省力化を目指すことが必要な現状を踏まえると、スラッジの引き取り回数の減少が出来れば大きなメリットとなる可能性を感じました。

また名鍍会の皆様におかれましても、更なる有益な情報提供の場となるよう目指していきますので今後とも何卒よろしくお願いいたします。

この度は講演頂きました山村様、川口様誠にありがとうございました。

Y. O.

1. 高濃度硝酸廃液のスラッジ化実験の手順

- ①マイクロチューブに、ニッケルめっきを剥離した高濃度硝酸廃液を5滴(0.2ml)添加。
- ②酸性のPAX-D(pH3)を1滴添加。
- ③アルカリ性のPAS-C(pH12)を4滴添加。
- ④マイクロチューブをシェイク(攪拌)する。



1-6. 自然乾燥試験

自然乾燥により、4～6日で元の処理液重量の20～40%程度になります。

